

◎「夜間中学」は、いつ頃、どんな目的で設置されたのでしょうか。

日本で最初の夜間中学は、1947年10月、大阪で設立されたと言われています。当時は敗戦直後で、貧しくて中学に通えず、昼間に働いて一家を支えなければならない子供がたくさんいました。そんな子供達を見るに見かねて、中学の先生達が自主的に夜間中学を始めたのです。その後、全国にたくさん夜間中学ができ、公立の夜間中学も増えました。1955年頃には全国に120校以上、公立でも80校以上の夜間中学で、5000人以上の生徒が学んでいました。

◎夜間中学の役割は、どのように変わってきているのでしょうか。

夜間中学は1955年以後、いったん減少しましたが、1960年代末頃に再び増加に転じました。生徒の質も大きく変わり、多様化しました。たとえば、①韓国や中国からの引揚者、②それまで学校に通いたくても通えなかった障害者、③戦前、日本の植民地支配の影響で学校に通えなかった在日韓国朝鮮人、④昼間の学校で不登校になって、卒業しないままになっていた人達。また1980年代には、⑤中国残留孤児、⑥ベトナム難民の人達も加わりました。1990年頃には、日本社会の国際化・グローバル化で、フィリピン人・ブラジル人の生徒も増えました。こうして夜間中学の生徒は、国籍・出身地・母語も様々、年齢も15歳の若者から90歳のお年寄りまで多様になりました。小学校さえ通えなかった人達もたくさんいますから、勉強内容も中学の教科書だけでなく、日本語や小学校レベルの読み書き・計算など、多様化しました。

◎今、どれくらいの夜間中学があるのでしょうか。

全国8つの都府県に、31の公立夜間中学があり、約1700名が学んでいます。来年度から埼玉県・千葉県に、新たな公立校も開設されます。ボランティアが運営する自主夜間中学も、全国各地にたくさんあります。現在、文部科学省は、公立夜間中学を各都道府県に少なくとも1校以上設置する方針を掲げていますから、今後、夜間中学はますます増えていくと思われます。

◎外国人の生徒が増えているとのことですが、どんな方がどれくらい学んでいるのか、現状を教えてください。

公立夜間中学の生徒は、約8割が外国人です。東京では近年、ネパール人が急速に増え、一番多くなっています。東京以外では、中国、韓国朝鮮、ベトナム、フィリピンなどいろんな国籍の人がいます。また東京では20歳未満の若い生徒が過半数を占めますが、その他の地域では15歳から70歳以上まで、幅広い年齢の人が学んでいます。

夜間中学の生徒は、勉学意欲がとても高く、非常に熱心に勉強しています。

◎どんなことを学ぶのでしょうか。教育プログラムなどについて教えてください。

中学の授業科目は基本的にすべて学びます。ただし、生徒の特徴によって、重点的に学ぶ内容は変わります。たとえば、若い外国人の生徒は、夜間中学を卒業後、高校や専

門学校に進学するので、日本語とともに進学に必要な科目の勉強が大事になります。小学校にも通えなかったお年寄りの生徒は、ひらがな・カタカナの読み書きや日常生活に必要な計算・漢字を学んでいます。一人ひとりの生徒の生活・成長にとって本当に必要なことを学ぶのが、夜間中学の勉強です。

◎これから、夜間中学は、どんな存在となっていくのでしょうか？ 夜間中学に求められる役割について教えてください。

今後、生徒がますます多様化していくと思われます。外国籍や外国にルーツをもつ生徒はますます増えるでしょう。他方で日本人でも、小中学校で不登校になって形式的に卒業証書は受け取ったけれど、その後、いわゆる引きこもりになっている人達に、夜間中学での学び直し・人生の再スタートのチャンスが大きく開けるでしょう。

夜間中学の役割は、どんな人も国籍・経歴・学力・年齢などの違いによって排除・差別されることなく、よりよい人生を目指して成長していくための義務教育の保障です。その意味で、昼間の中学校が夜間中学の教育から学ぶべき点も多いと思われます。

夜間中学で学びたい人は、ぜひ関係情報にアクセスしていただきたいですね。